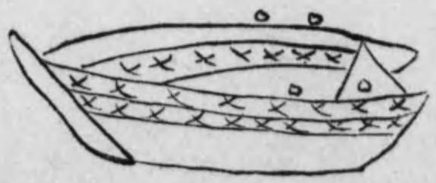
タライカ夷人ノ酋長來ル。髪長サ五尺バカリ、ナカバヨリ三ツ組トナシ、端ニ錦ヲ付タリ。下人ヲウタント云、其髪肩ヲスギタリ。舟ハ列テ車カイト云モノヲ左右ニ多クタテタリ。舟幅四尺バカリ長キ一八九把アリテ舟中積トコロノ物ヲトルトキハ、舟スナハチユラルヽヨシ、底丸キガ故也。數百里ノ水行皆其船ヲ以テ往來スルニ過チアル一少シ。



按、蝦夷舟大船なし。皆カイを以て左右にかきて運行す。其製木を合せて綴るに葛(カツラ)を以てし、曾て釘類金具を用ることなしとぞ。吾五六歳のとき、夷人手製にしたる所の舟の雛形を見る。其大さ三四尺許、今それに據て圖を設く。雖レ然小兒の時見しものゆへ、其くはしき事を不レ得。底はほりぬきにして、葛の綴めと木の合せ目には、木皮樣のものを以てつめ塞ぎて水の入るを防ぐ。

○蝦夷甲冑

松前志云、甲冑をハヨッブと名け、堅硬の木を以て製レ之。亦長槍あり、バラヲフと名付。武備志の寧筆鎗に似たり云々。

蝦夷談筆記云、具足はアモシベ(海獸ナリ。)と云皮にて、蝦夷人細工仕候。甲はタカラカウジ(未詳)と申候木にて仕候。是に上ほろかけ、矢よけに仕候云々。

按、甲冑他に未だ見聞せず。蝦夷志、三國通覽等に有所の圖不レ審なり。恐くは眞圖に非ず。夷邦の兵器甲冑槍に弓矢太刀を加へて其他に有ことを不レ聞。蝦夷志にショキネ棒とて足の甲を刺す兵器なりとて見へたり。シャムシャインが亂の時、鬼ヒシと云夷人足の甲をつかれて死すと有は此兵器なる歟。其他聞く所なし。

三代實錄、元慶八年九月廿九日丙戌出羽國司言、今年六月二十六日秋田城雷雨晦冥、雨二石鏃二十三枚、七月二日飽海郡海濱雨二石似レ鏃、其鋒皆向レ南。陰陽寮占云、彼國之憂應レ在二兵賊疾疫一

同仁和元年十二月廿二日辛丑、去六月二十一日出羽國秋田城中及飽海郡神宮寺西濱

雨ニ石鏃ヲ、陰陽寮言、當レ有ニ凶狄陰謀兵亂之事ヲ、神祇官言、彼國飽海郡大物忌神・月山神・田川郡田豆佐皮賣神俱成ニ此怪ヲ、祟在ニ不敬ヲ、勅令ニ國宰恭祀ニ諸神ヲ、兼愼警。

○鹿伏神軍　諸國里人談、佐渡國鹿伏明神毎年二月九日大雨風にして夜に入て大きにあれ、明がたよりしづまり、翌十日極めて晴天なる事、例年たがはず。土俗其夜は神軍ありと云傳へて、戸出をせず籠れり。あけの日社頭の邊にふしぎの矢の根數あり。尖矢、かりまた、かぶら矢などさま〳〵の形にして、大さ常の箭の根のごとし。人民是を拾ひて守とす。回國の僧抔拾ひ得て來る事あり。

飽海神軍　出羽國庄内飽海社は大物忌太神と號す。祭神倉稻魂神也。年々一度風烈しく震動して天氣常に異なる。雪霰の中に矢の根交て降る也。これを神軍とて土人大きに怖る。晴て後木陰に石に非ず、鐵に非ず、鏑矢、蟇股等の鏃數品あり。これを雷斧と云。鹿伏の矢の根にかはらず。又奥州、能州の中にもあり。常州鹿嶋にも有と云り。これ則本草に云所の雷楔、雷斧の類ひなるべし。白石手簡に西國には無しといへり。實なるべし。夫に付ての說臆斷取るに足らず。奥州津輕郡三馬屋海邊山麓の地を掘れば、土中に此物あり。

其所は畠地也とぞ。予往年此地に風順を待し時、人取得る物を見る。征矢、雁股、鏑矢等宛然として眞に迫れり。其石質堅剛、他石の類に非ず。而も削り成せるが如き痕あり。雖レ然決して人作に非ず。長一二寸許。或赤、或白、或黑、或青等の數色あり。

○矢根石ハラウタ石

松前志。此物處々に有。雖レ然大なる者を不レ見云々。津輕三馬屋海邊之山麓有ニ此物ヲ予見レ之。

按、自然の石にして其狀甚矢根に似たり。大さ一二寸許、石質堅硬、赤黑青白の數色あり。此物本邦にも處々に有りと聞けり。

松前志云、自然生の石垣石なり。其色鷹背色にして奇云べからず。西部上國より東方原歌（本ノマヽ）の名產なり。

按、越後田代の七ッ釜石垣の類也。其他比類諸國に有り。

此他之産物本邦に有所の物、亦諸書に出たるは今〻略之。

○ゑびすのみよりいだす血　袖中抄顯昭云、おうのえびすはわが子人の子定めむとするにはちゝが血と子の血とぞ合すに、我子なればば親子の血壹つにあひぬ。人の子なれば血一つにならず。といへり。さてことうちなればあはずとはよめるなり。

みちのくのえびすの身よりいだすちのことうちなれやあはぬこひかな（此歌註ノ前ニ書ベシ。）

○追記

夷邦有二邪術一　これは夷人を緊縛して闇中に置けば、其繩を自然と解く也。但し神符、又物、燈の透明抔有ては能はず。其法一人を縛し、外に一人笹を束て咒文を唱へ、是を唱す、則神來て其縛を解くとぞ。これ本邦の狐遣ひの類ひなるべし。

○獵之次第　夷人獵は山獵は弓、鐵炮、アマクウ等也。穴熊は木枝を投入て取こと、

本邦北國の獵法の如し。海漁は網釣ハナシ（本邦のヤスなり少しく形違ふ。）にて突てとる。網は地引起し網等はなし。獵法甚麁なれども、魚類多き故其利は本邦に倍せり。

○小人國　蝦夷談筆記云、アイサコ嶋と申處にて板にて拵へ、横二寸竪三寸許なるもの拾ひ候處の者に相尋候へ者、むかし此島へ小人嶋の者ども參候て土を取、又葦を百人許にてぬき取り歸候と申傳へ所の名を小サネ嶋と申候。右板にて拵たる物は小サネのあはと申候。網の浮にて候。是を五六枚も重ね釘にて打付たるを拾ひ申ものも有之候。黑燒に仕り、用ひ候へ者虛落申候。又ひぜむ瘡に付候へ者早速なほり候由申候。

木は何とも見分がたく杉のごとくに似たるもの

に候。但あはと申て日本詞に而候。小サネと申　あはの圖

候は何の事にて候哉知不〻申候。

寛文年中聞蝦夷國書　十三年勢州松坂七郎兵衛船、北蝦夷地へ漂流之記、蝦夷人物語申候者小人島より蝦夷へ十を盗みに參り候。おとし候得者其儘かくれ船見へず候。

蝦夷の端より船路百里も御座候。土を盗み鍋にいたし候と承候。殊者外ちいさく候と申候。

小サネ島、夷地何方に有や不ㇾ知。小人島のことは北蝦夷地抔にて往々小瓶様の物を掘り出すことあり。是を小人嶋の物と云。環海異聞中にも此島人見へたれば、實に北海に小人國有と見へたり。

此他に漏たる珍談奇怪之話は追て隨筆中に輯錄すべければ今こゝに略す。

金銀山ハシフチヤリ千軒嶽シリウチヨリモ金出ルヨシ、其他猶アルベシ。又ハホロニ砂金アリト云。

文久三年癸亥十二月中旬書畢　　德廣

此書後日見ㇾ之、誤甚多、考索未ㇾ足、閑暇之時可ㇾ補ㇾ之。

元治元年六月廿九日　　德廣再覽

祕籍大名文庫刊行の辭

近時古典研究熱の昂まるにつれ、古書覆刻の要求が益々盛んになり、巷間、この種類書の刊行さるゝものが決して尠くはないが、本文庫の如く、寫本の世に一部或は數部しか存するものなく、然も、今日筆寫さへ容易にあらざる稀覯本を主としたる覆刻の如きは、未だ行はるゝに至らず、識者をして失望せしめること多大であつたが、弊閣こゝに稽ふるところあり、古書の藏書家として學者間に於て垂涎の的となり、又古典知識の第一人者として一代の碩學たる福井久藏博士に諮り、今漸く「祕籍大名文庫」の刊行を見るに至つた。

刊行書目は、寫本として數十金を投じてもなほ今日購ひ得ざる珍本を主とし、百金を以てしても手に入れ得ざる板本を混へ、中に、その道の學者にすら、未だその存在を知られざる絶品さへ幾多收載されてゐることは、本文庫の窃に誇とするところであり、また、種目は凡る部門に亙り、單に古書の蒐集といふ一點のみよりこれを見るも、絶版の曉には、幾倍或は幾十倍の市價を呼ぶものゝ多數含まれてゐることは、本文庫の持つ本としての特異性であると信ずる。

宛も本文庫は、博士が畢生の大著たる弊閣版「諸大名の學術と文藝の研究」中に擧げられつゝも、然も世人の眼に觸れたることなき珍籍の覆刻であり、該書と文庫と兩々相俟つて、こゝに絢爛たる德川文化の全貌は識者の前に初めて今日明かにされるであらう。

大方の御支持を期待して已まない次第である。

厚生閣主

秘籍大名文庫

第一期刊行豫定書目

國體本義諸篇　戸澤土佐守正令著
皇朝魂辨、大日本說之說、その他日本精神昂揚の興味ある未刊典籍

治教秘錄　黑田豐前守直邦著
治教略論、家僕教訓、等身を幕臣より起し大名に列した直邦經世談

兵法家傳書（殺人刀 活人劍）　柳生但馬守宗矩著
將軍家指南柳生侯の傳書で特得の兵書、劍禪一味を說き又修養の糧

大東婦女貞烈記　松平鬱岳公子著
我邦上代よりの貞烈なる婦女四十有二を傳し、話柄各種、興趣不盡

藝苑漫筆（五種）　松平樂翁公著
建築に關する兎裘小錄、其他茶から庭園、雅樂、繪畫に至る隨筆集

蝦夷嶋奇觀補註　松前志摩守德廣著
幕末露艦來航に際し松前侯の編した北海風俗慣習動植物歌曲圖入本

松秀園書談　增山河內守正賢著
六書八體より隸眞八分、行草飛白の諸體、著名法帖論評等、用筆圖入

本草啓蒙補遺　黑田樂善侯著
和漢洋の文籍と觀察實驗に鑑み廟山の本草啓蒙補正を企てた稀覯本

菊經　松平大學頭賴寬著
栽倍に關する事其他、器具から害蟲迄圖入で說明した菊家垂涎書

鷹山公婦女庭訓　上杉彈正大弼治憲著
仁君の鑑と謳はれた鷹山公が六人の孫女に與へた婦德婦言婦容教訓

秘籍大名文庫

昭和十二年十二月十四日印刷
昭和十二年十二月十七日發行

定價壹圓五拾錢

蝦夷嶋奇觀補註

編輯者　福井久藏　東京市麴町區下六番町四十八番地
發行者　岡本正一　東京市牛込區山吹町百九十八番地
印刷者　山本禎男　東京市牛込區山吹町百九十八番地
印刷所　株式會社宗文社印刷所

發行所　圖書出版　厚生閣
東京市麴町區下六番町四十八番地
電話九段三二一八番
振替口座東京五九六〇〇番

服飾漫語　田安中納言宗武著　我邦中世に於ける服裝を說いた有職學の文獻で、貞丈の加註本覆刻

歌學論叢　前田龍澤侯著　今年今月今日の調を高唱し、易の理に和歌を會通せしめた獨創歌論

歷朝詩纂　松平大學頭賴寬撰　論語徵集覽の著者で今百卷の前篇を覆刻、二百四十四家の作を蒐む

名侯歌文集　保科正之堀田正俊其他　名君として知られる政宗、正之から光圀、正俊、光隆の珍籍五種選

蘇明山莊句集　柳澤米翁侯著　米仲に就く事十七年、斯壇の宗匠を以て自他許した米翁公秘藏句集

鳥名便覽　島津薩摩守重豪著　鳥名四百十五種、一々和漢名方言並に變名を錄した一書、鳥界珍寶

古今錢貨譜　朽木近江守昌綱著　古文錢震旦錢より日本高麗宗南等に及び鑄錢法鑑定法迄圖入權威書

宴遊日記別錄（一名江戸三座觀劇日記）　柳澤美濃守信鴻著　米翁公の觀劇日記、回數實に百卅回に上る中村市村森田三座演劇錄

創垂可繼　大關土佐守增業著　社祭式、年中行事、その他水利農產の大家黑羽侯の遺した偉業可見

淺草寺誌　池田冠山侯著　冠山侯の有名な淺草寺誌、文人交遊、世態人情、宛然江戸風俗誌也

以下續刊　各冊定價別　詳細目錄呈

67
532

文學博士　福井久藏　著（內容見本呈）　帝國學士院研究補助の大著述

諸大名の學術と文藝の研究

菊判背革上製本函入、貴重文献筆跡別刷口繪附、八百頁函入、定價拾圓、送料卅錢

本書は博士が德川期に於ける學術と文藝の眞相を把握せむがためには、時代の主導勢力たる三百諸侯とこれを圍繞する學者文人の遺作を盡く渉獵するの要あることを夙に認識せられ、本業の完成を企圖せられてより東行西走、よく諸侯の秘庫に參じて貴重なる資料を得、爲に博士によりて新しく存在を千古に揭げ得る名作名研究の發見されたるも亦尠しとせず、これらは概ね逐次秘籍大名文庫として刊行を見る筈であるが、その熱意は遂に前人未踏の本研究を大成せしめ、德川期に於ける學術と文藝とはこゝに初めて文化史的に綜合樹立された。名著名作の多くを引用し、貴重寫眞を挿入して記述は平明、現代の史家、文學者、科學者、軍人、歌人、俳人、茶人等を稗益すること多大なるものがある。

內容一班

序論（本書の成立）
第一—諸侯と儒學（藩學の興起）
第二—諸侯と神道
第三—諸侯と佛教
第四—諸侯と國學
第五—諸侯と歷史
第六—諸侯と地誌
第七—政令と教訓（一政治・二教訓）
第八—諸侯と兵學（一兵學一般・二馬・三犬追物等の騎射・諸侯と鷹）
第九—諸侯と科學（一數學・二醫學・三理化學）
第十—諸侯と文學（一和歌・二連歌・三俳諧・四紀行文學・五國林文學・六諸侯と戯文・七漢文學・八漢詩）
第十一—諸侯と錢貨
第十二—諸侯と藝術（一音樂・二繪畫・三書道・四茶道と諸侯）
第十三—雜（一隨筆・二叢書）
總索引

67
532

終